

## 平成 26 年度 教員活動自己点検・評価報告書へのコメント

副学長 石倉隆

総じて、教育活動、研究活動、学園・大学運営について、教員活動はバランスよく実行できていると判断できる。特に、教育については、国家試験合格を目指すには不十分な学力の学生が少なからず見受けられる中、細やかな指導が実施されている。

ただ、個別に見ると、教育活動への偏り、研究活動への偏りが散見される。昨今は、文科省の大学への要求として教育を重視することが求められている。しかし一方で大学は研究機関と位置づけられ、研究成果の社会への還元も大学の大きな使命である。本学のミッションや特性上、教育に重点を置くことが重要であるが、大学教員である以上、相応の研究成果の社会への還元も求められる。

本学が必要とする教員像は、教育と研究がバランスよく実施できる教員であり、物理的にこれらのバランスを取ることが困難な状況であれば、これを改善していかなければならない。平成 26 年度まで「男女共同参画・若手研究者支援委員会」で活動していたこれらの打開に向けた事項は、平成 27 年度からは全学的な取り組みとして、運営会議に移行することとしていることから、この問題に積極的に取り組んでいきたい。

また、あまりに教育偏重となると、大学院を有する本学の大学院教員の枯渇に直結することから、学園としての運営にも影響する。研究科委員会を中心として、この問題ともリンクさせ、上述の問題を解決していかなければならない。